

6/7月 国鉄「過員」攻撃うちくだき 三里塚二期粉碎・トマホーク阻止・中曽根打倒

日刊 勤労千葉

84. 6. 7

No. 1659

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二〇七

第7回支部代表者会議が、6月5日、13時より、動力車会館において開催され、三里塚二期着工をめぐる攻撃の切迫化の中にあつて、6月7月、核巡航ミサイル・トマホーク実戦配備反対の闘いを中心とする反戦・反核闘争の高揚にむけた闘いおよび、いよいよ決戦的段階を迎える国鉄「過員」攻撃粉碎へむけた当面する取り組みについて全体で確認し、厳しい状況のなかで全力をあげていくことが決定されました。

「三里塚・反戦・反核」と「国鉄」をめぐる決戦情勢にたちむかう

支部代は、山口副委員長を座長として進められ、挨拶にたつた中野委員長は「6・7月は反戦・反核としてトマホーク配備反対にむけて6・15、6・24の闘いを取り組んでいく。このことは、軍事大国化―改憲攻撃の最たるものであり、日本核武装―対ソ前進基地化を狙うものである。三里塚闘争と結合して闘わなければならない。また、国鉄をめぐる情勢も緊迫化しており、60・3ダイ改で合計三万名の『過員』が生まれ、国鉄当局は『国鉄として生き残るための最後の手段』として大々的な『過員』攻撃―レイオフ―生首切りへの突破をかけた凶悪な攻撃をかけてくるのは必至であり、国鉄労働運動は決戦状況をむかえる。こうしたとき『本部』革マルは『生き残り運動』と称してますます反労働者性・反動性をエスカレートさせ、社会党―総評ブロックをはなれて自民党と一緒にになって労使一体化の経営参加の反動的路線をおし進めている。国鉄再建監理委員会や国鉄当局に完全に屈服し『働こう運動』を反動的にエスカレートさせている。こうした国鉄の状況とともに三里塚現地もまた二期工事をめぐって緊迫した状況をむかえ、すでに自主耕作地に対して機動隊による排除や、成田用水の強行着工をめぐる攻撃がかけられてきており、三里塚・国鉄決戦で、反動中曽根内閣の『戦後政治の総決算』の大反動攻撃と闘い抜こう」と決意を明らかにしました。

続いて水野副委員長より、第6回支部代以降の経過と当面する取り組みについて報告されました。

まず第一に、米帝レーガンによる核巡航ミサイル・トマホークの6月アメリカ太平洋艦隊への実戦配備と中曽根の「配備歓迎」なる日本の核武装化・核基地化へむけた反動発言、第二に、三里塚二期工事をめぐる切迫した情勢認識、そして第三に、国鉄をめぐる動きとして、(1)85年度32万人体制としての「国鉄経営改善計画変更案」、(2)5月8日において「国鉄再建監理委員会」は、仁杉総裁を呼びつけ、①遊休地処分、②貨物合理化、③乗務員以外の職種の合理化等のはっぱをかけ、来年7月には最終答申が出される予定にある。こ

うした再建監理委員会・当局と一体となつて国鉄労働運動・労働組合破壊が激化している状況にある。(3)こうした国鉄情勢の中で、5月1日早朝、津田沼電車区において国電に一千枚の国労津田沼電車区分会を装った謀略的「ビラ貼り事件」が発生した。これは明らかに権力と当局の弾圧を津田沼職場に呼びこむ目的で大がかりに行われた反動的謀略行為であり、断乎として粉碎しなければならぬ。国労津電分会と勤労千葉津田沼支部は直ちに弾劾の立場を明らかにして当局の弾圧に抗議し反撃にたつた。ところが、革マル嶋田ら動労「本部」革マル分子らのみが、この「謀略」については全くの沈黙をきめこんでいるばかりか、当局と一体となつて勤労千葉、国労への攻撃を開始している。われわれは、当局・革マルの一体となつた組織破壊攻撃を見すえて次のとおり取り組みでいくことを確認しました。

当面する取り組みについて

1. 勤乗勤、検修合理化、「過員」問題の取り組み
(1) 内達対策委員会の引きつづき設置と協定整理。
(2) ダイヤ作成に当たっての組合要求のおしこみ。
(3) 検修対策委員会の設置。
(4) 本部分科会三役会議の開催。
 2. 4月期昇給について
(1) 3項8号及び4項の濫用を許さない取り組み。
(2) 業務上事故による回復昇給の取り組み。
(3) 欠格条項を出させない取り組み。
(4) 組合要求に基づく4項の活用。
 3. 組織強化・拡大の闘い
(1) 労働学校による学習活動の強化。
(2) 毎月30日を「運転保安確立の日」に設定。
(3) 地域班、家族会の8月末目途の結成。
(4) 各支部月1回の職場集会の定例化。
 4. 6月反戦・反核行動について
(1) 6・15二期阻止・反トマホーク・中曽根打倒 全国総決起集会・国会デモへの参加。
(2) 6・24反核・トマホーク阻止 全国集会への参加。
(3) 各職場での反戦・反核学習会の開催。
- 以上